

# 経済 TOPICS

No. 256

(2026年6月12日)

## 景気ウォッチング（要旨）

日本 … 輸出や設備投資が横這い圏内の動きとなったものの、個人消費と生産が緩やかに増加していることから、全体としては緩やかな成長が続いている。消費者物価(除く生鮮食品)は、食料とサービス価格の前年比プラス幅が縮小したことから、前年比プラス幅が縮小した。中東情勢の緊迫化に伴い、原油供給に対する先行き不透明感が極めて強い状態が続いている。

米国 … 個人消費は弱めの動きを続けているものの、輸出と設備投資が大幅に増加し、雇用も堅調なことから、全体としては底堅く推移している。中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰が続いていることから、消費者物価(総合)の前年比プラス幅が大幅に拡大するなど、先行き不透明感が極めて強い状態が続いている。

### (参考)日米の物価動向

〈日本〉 消費者物価(除く生鮮食品)は、食料とサービス価格の前年比プラス幅が縮小したことから、前年比プラス幅が縮小した。一方、国内企業物価が大幅に上昇していることから、消費者物価への上昇圧力が強まっている。この間、食料価格(除く生鮮食品)の上昇が続いているため、エンゲル係数が過去最高水準になっている。

〈米国〉 中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰が続いていることから、消費者物価(総合)の前年比プラス幅が大幅に拡大している。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング